

ちやぶ台から始まる都市。

現代の都市は人間のスケールをはるかに
超えた巨大な高層ビル群に包まれ、都市
計画により区画された町の中で人々は法律
が建物に守られて暮らしている。
今回提案するのは人のスケールを元に
人の動きによって都市が変化する新しい
都市の計画「ちやぶ台から始まる都市」。

— 広島県 福山市「2×××年の都市計画」 —

福山大学大学院 工学研究科 建築学専攻
修士課程2年 河田陽依菜

地方都市にしかない魅力とはどのようなものなのか。

また大都市にはなく

地方都市のこれからの在り方とはどのようなものなのか。

新しい土地の開発ではない。

地方都市に求められているのは建物の高層化や、

1.背景

1.1 現代の地方都市の町並み分類

1

町並みが変化し続けている町

再開発や大型商業施設の建設などにより変化し続けている市の中心となる駅前など。

2

戦後の復興から町並みの変化がない町

昔懐かしい雰囲気が残されている。

3

戦後に新しく開発された町

田や山を切り開き、戦後に新しく開発。

2.提案

現代の都市計画に代わる

2XXX年の都市計画

現在人々は町の新しい発展にむけて様々な計画を立てておりそれらの計画は、数年後、数十年後を想定している。「2XXX年の都市計画」は、その計画が実行された後の未来に生じる問題に対しての計画であり、未来の視点に立ち、未来の視点から20XX年の都市を考察する。2XXX年がより良い都市になるための計画を段階を追って計画していく。

1.2 地方都市の問題点

(1) 中心市街地の衰退



郊外へ大規模な商業施設の建設が進んだり、新しく住宅街が開発されたりすることにより駅前に訪れる人は減少した。駅前の賑わいを取り戻すため計画をたて、実行している都市もあるが賑わいを取り戻すまでには至っていない。

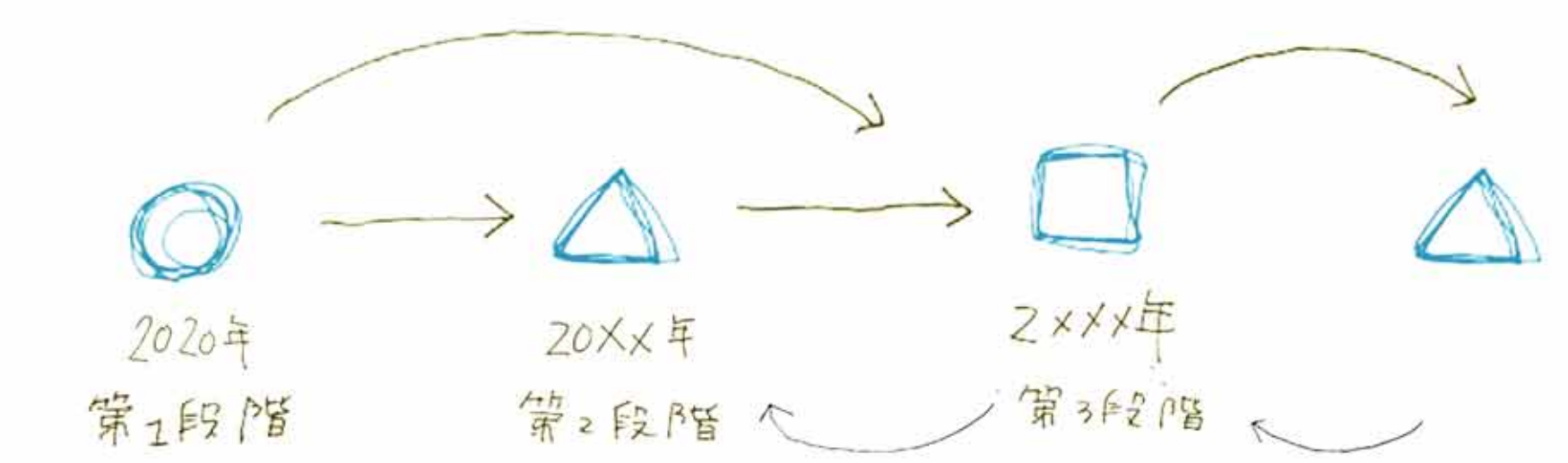
(2) 再開発が行われていない町の将来

戦災復興から一度も再開発が行われていない町は徐々に人口が減少する。しかし、落ち着いたある昭和の町並みは人工的に作り出すことは難しく戦後の建築、町並みも価値あるものとして捉えられる。再開発以外の今後の町の在り方を考える必要がある。



(3) 住宅団地の高齢化

戦後から開発された住宅団地は、働き盛りの30代から40代をターゲットにしており、高齢化も同時に進行していく。それに伴い、空き家の増加、交通機能の低下などの問題が発生している。地方都市の多くの人々の居住の場である住宅団地の問題を解決することはできるのだろうか。



様々な人が未来に向けて様々な計画を立てている。 計画が実行された新しい町。社会構造が変化している。 新しい問題が生じてくる。この視点からみた計画をする。

3. 計画都市 — 広島県福山市 —

(1) 福山市 概要

市域面積：約 518k m² 人口：46万人（2018年3月末現在）
福山市は、広島県の東部、瀬戸内海沿岸のほぼ中央部に位置。市域面積約518km²、人口46万人（2018（平成30）年3月当時）の中核都市である。現在は転出者数が転入者数を上回るマイナス推移が続いている。中心市街地の空洞化の対策として、駅前の再生を目指す「福山駅前再生ビジョン」が策定され、駅前の開発の計画が立てられている。

(2) 都市マスタープラン

福山市は1998（平成10）年「福山市マスタープラン」を策定、その後見直され、2008（平成20）年に現在のマスタープランを策定した。2019（令和元）年には社会構造の変化への対応とし現在の都市マスタープランに加え「福山市立地適正化計画」が公表された。2050（令和28）年の都市の姿を見据えた基本目標を立てている。



(3) 福山市調査概要

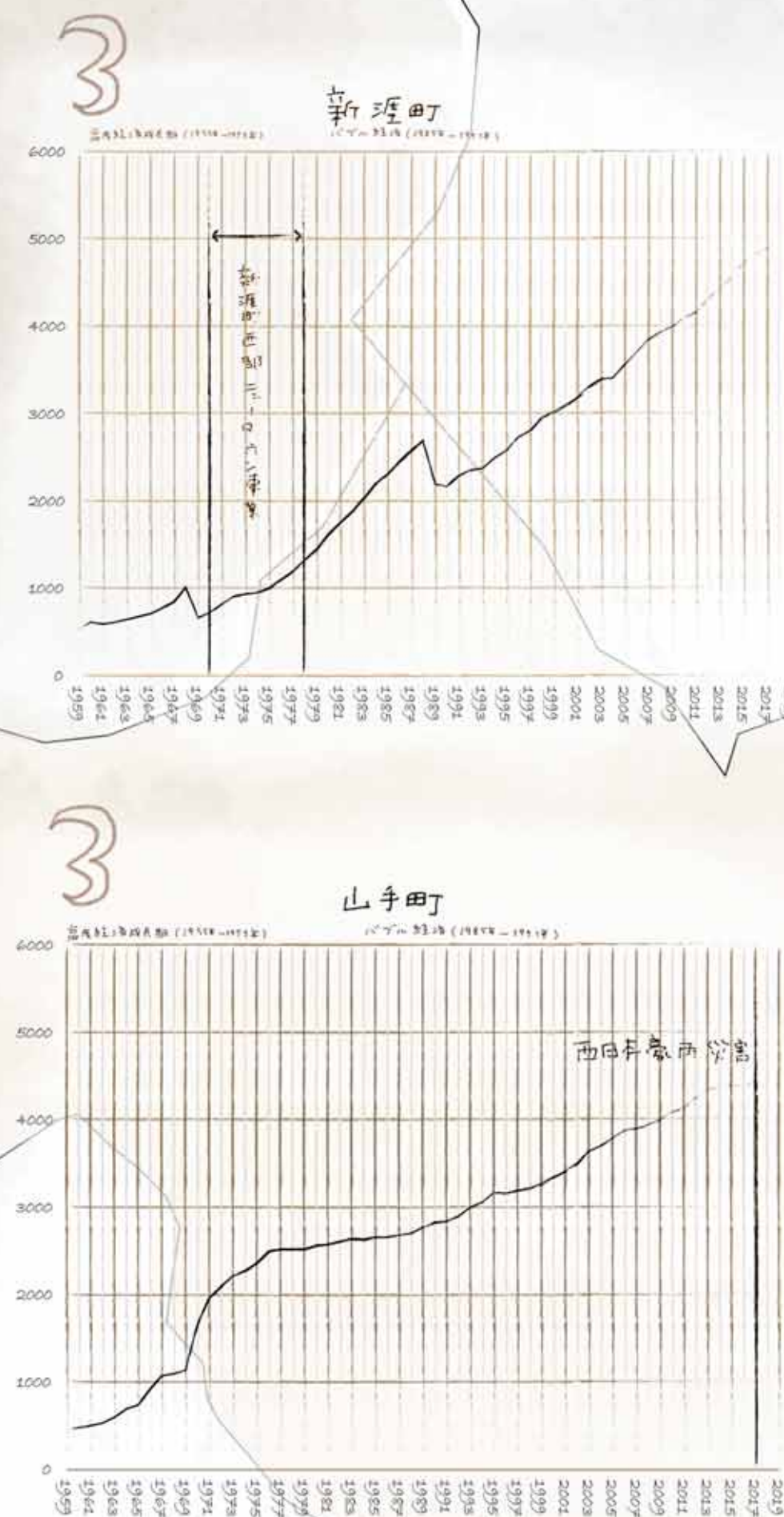
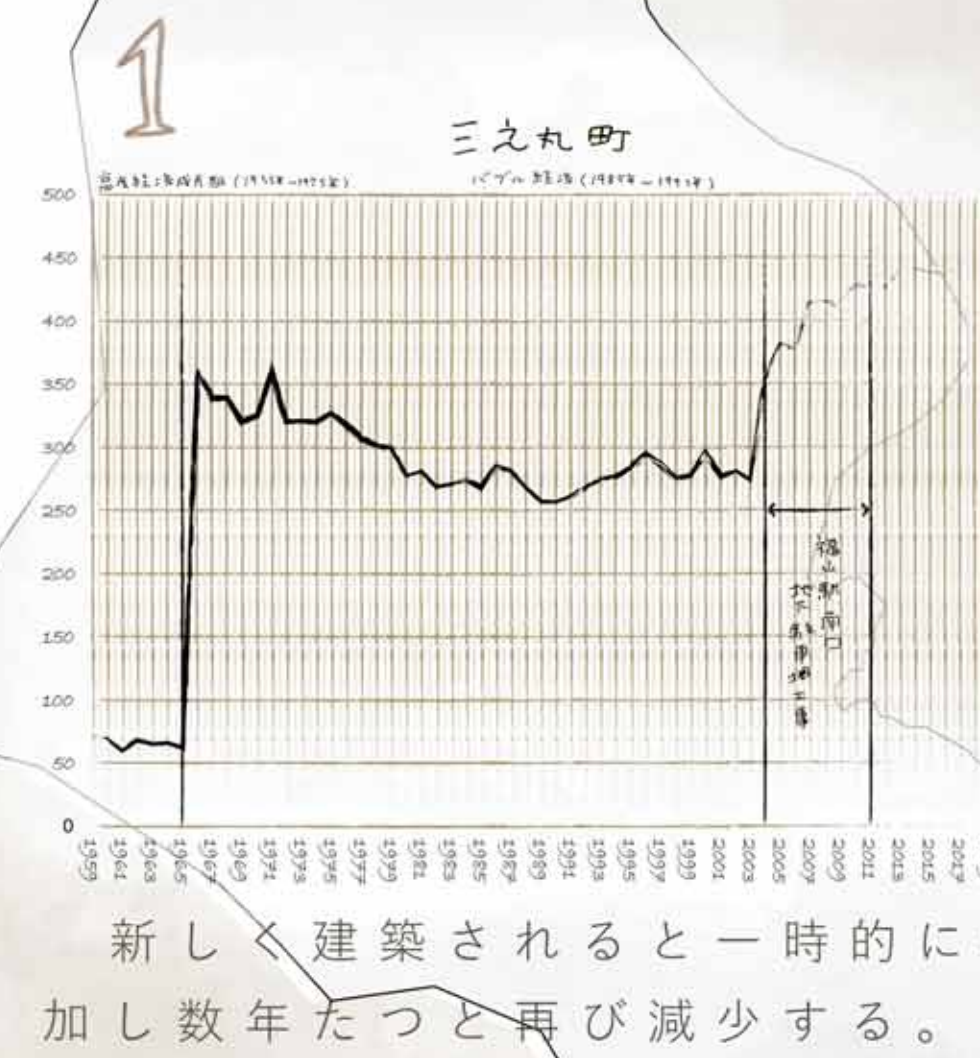
方法：昭和34（1959）年～令和元（2019）年
住民基本台帳を元に世帯数の増減を調査。

- ・世帯数に基づいた町並みの分類を行う。
- ・大きく増減している部分を調査。
- ・何がきっかけで町並みが変わるのか推測。

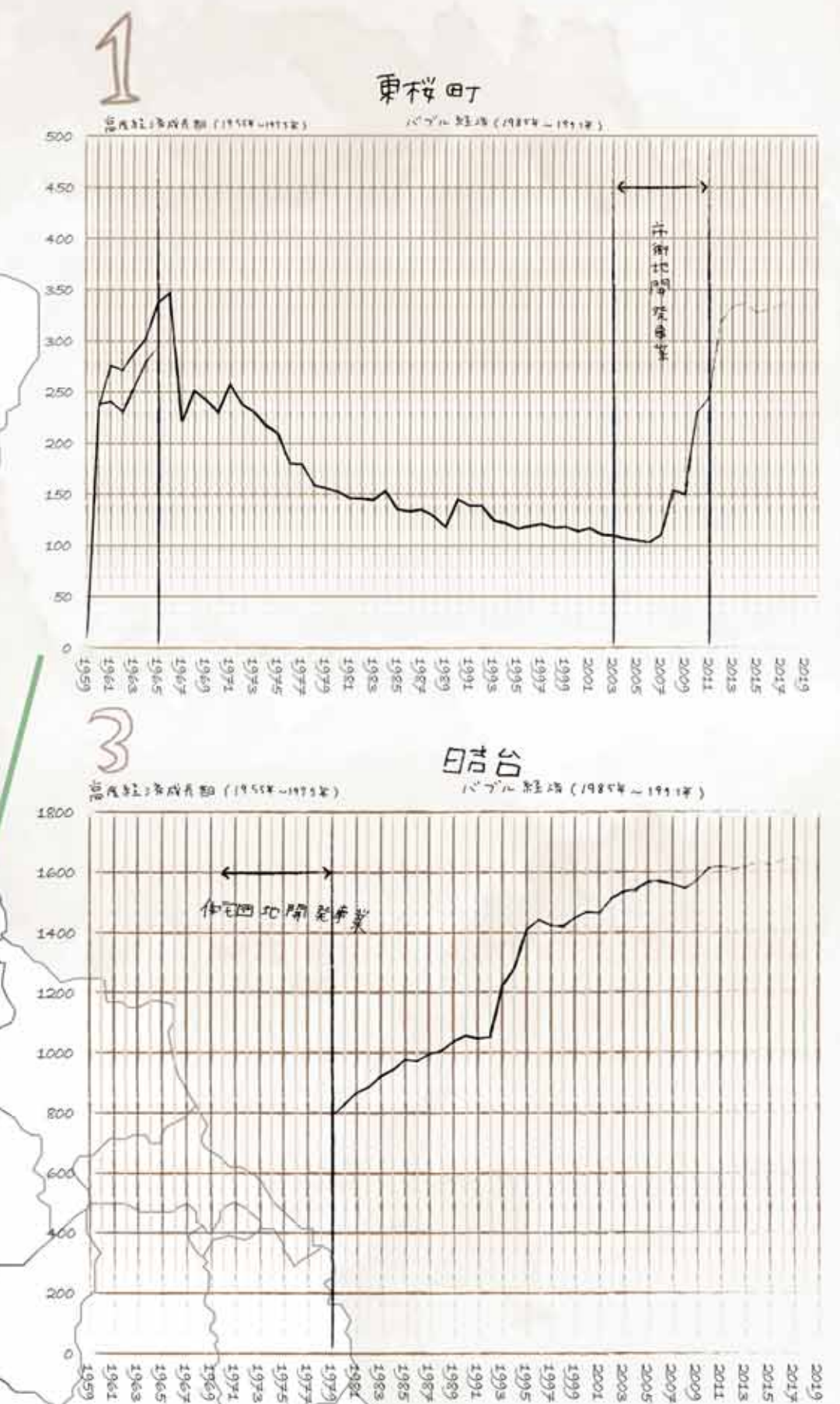
↓
福山市の134の町を
「地方都市の町並み分類」の3つに
基づき分類する。

(4) 福山市分類

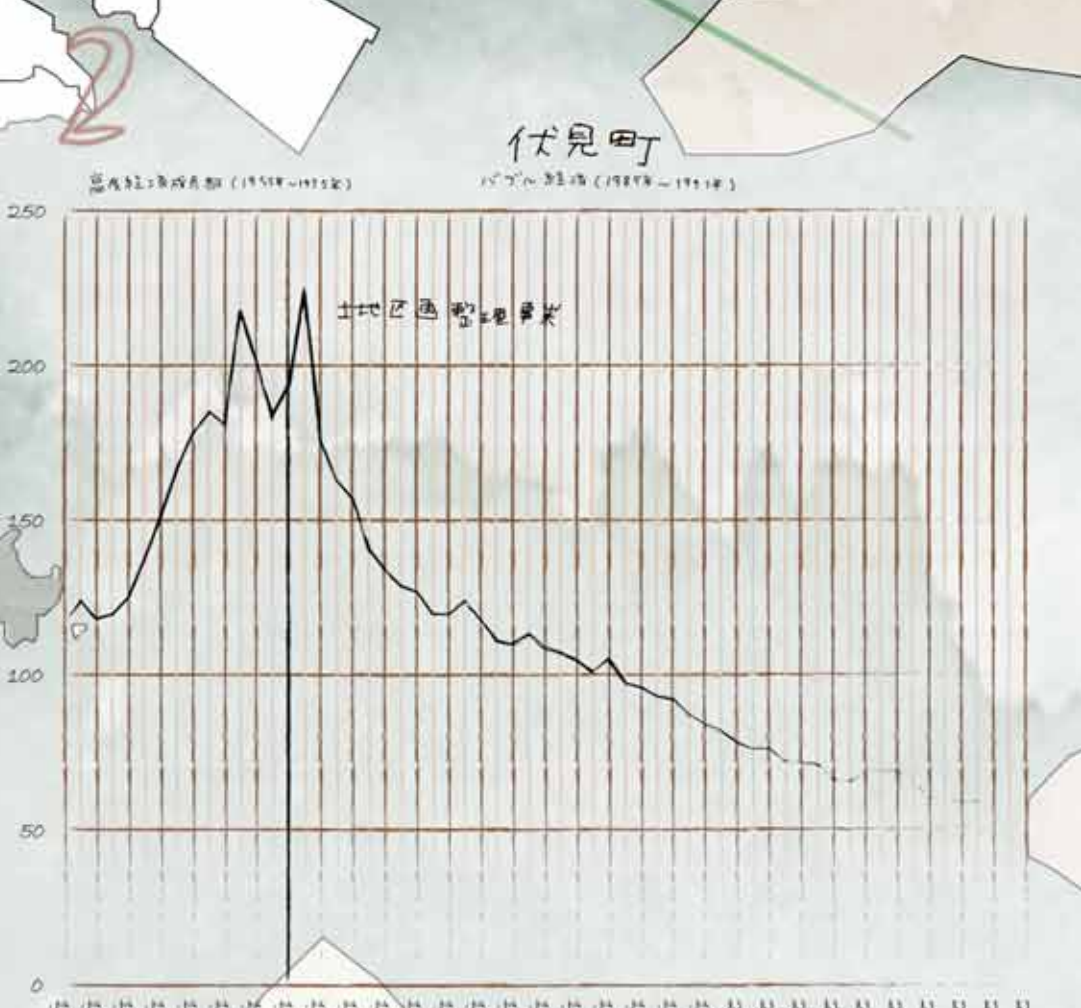
1	戦後も町並みが 変化している町	福山駅付近	霞町、今町、笠岡町、宝町、城見町、本町、東桜町、丸之内、三之丸町、元町
		郊外	赤坂町、沖野上町、川口町、木之庄町、光南町、郷分町、紅葉町、蔵王町、地吹町、新瀬町、瀬戸町、千田町、大黒町、多治米町、津之郷町、手城町、寺町、道三町、奈良津町、西町、野上町、東町、東深津町、引野町、本庄町、松浜町、御門町、港町、箕島町、水呑町、御幸町、三吉町、山手町、横尾町、御船町、入船町、胡町、北吉津町、熊野町、卸町
		合併した町	松永町、今津町、高西町、東村町、本郷町、神村町、宮前町、柳津町、金江町、藤江町、芦田町、熊家町、加茂町、内海町、新市町、沼隈町、神辺町
2	戦災復興以降 一度も町並みの 変化がない町	福山駅付近	昭和町、伏見町
		郊外	吉津町、草戸町、桜馬場町、佐波町、住吉町、長者町、新町、古野上町、南町、明治町、船町、延広町
3	戦後新しく 開発された町	郊外	王子町、春日町、北美台、新浜町、大門町、坪生町、水呑向丘、走島町、田尻町、旭町、曙町、伊勢丘、一文字町、春日台、若松町、西桜町、花園町、緑町、銅管町、高美台、千代田町、箕沖町、南手城町、明神町、青葉台、卸町、清水ヶ丘、西深津町、久松台、日吉台、練陽町、南本庄町、南松永町、幕山台、春日池、北本庄、高陽町、能島丘、東吉津町、南蔵王町、大谷台、西新瀬町、東川口町、東手城町、東陽台、明王台、城興ヶ丘、平成台、神島町、沼隈町、能島、東明王台、南今津町



町並みの変化がない町は世帯数の増加が無く減少し続けている。



戦後新しく開発された町は緩やかに上昇し続けているが数年たつと「3」と同様に減少していく。



4. 敷地選定 — 三之丸 伏見町 日吉台 —

福山市を3分類した結果に基づき、分類ごとに一つずつ町を選定し、計3つの敷地を選定した。町並みが変化し続けている町、三之丸町。戦後の復興から町並みの変化がない町、伏見町。戦後に新しく開発された町日吉台。伏見町は、2018(平成30)年福山大学工学部建築学科卒業研究で行った「都市の逃げ道—広島県福山市伏見町うっかり交流空間—」にて計画済みであり、今回は三之丸町のみ建築計画としての提案を行う。

1 三之丸町 — 町並みが変化し続けている町 —



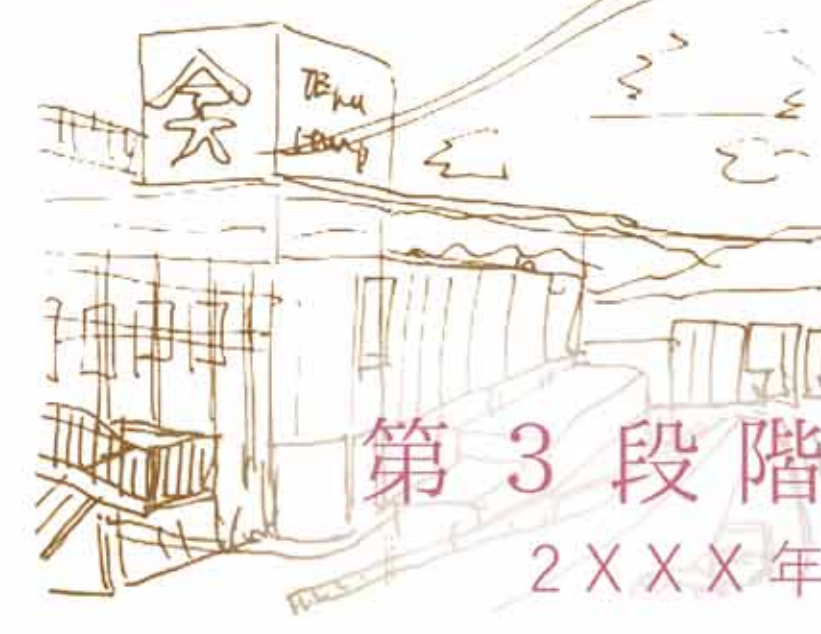
第1段階
2020年

戦後から大型商業施設の出店が続いている町。福山駅前再生ビジョンの対象エリアでありオフィスと商業施設の複合施設の建設が進行している。



第2段階
20XX年

2023(令和5)年に複合施設が完成し多くのテナントや企業がいる。新しく整備された町に人々は興味を持ち集まるようになる。



第3段階
2XXX年

建物が老朽化していく。また福山立地適正化計画などの影響により駅郊外に新しく商業施設が建設されるなどして賑わいの場が郊外に移る。駅前には再び空洞化する。

空洞化とにぎわいを繰り返すのではなく持続性のある計画が必要

2 伏見町 — 戦後から町並みの変化がない町 —



第1段階
2020年

2018(平成31)年まで開発が行われていなかったが現在は福山駅前再生ビジョンのエリアである。ビルのリノベーションが進められ「まち宿」の計画も進行している。



第2段階
20XX年

計画内容が完成し地域の個性が集まった町として多くの人々が集まる。周辺の観光施設へ向かう観光客の宿泊の場として地域外からも人が集まる。



第3段階
2XXX年

まち宿の計画は周辺の町の観光業の影響を受けやすく、観光を主としている町が今後衰退すれば伏見町も同様に衰退してしまう。

個性を生かし周囲に影響されない計画が必要

3 日吉台 — 戦後新しく開発された町 —



第1段階
2020年

福山市立地適正化計画の居住誘導区域に指定されており、人口を維持させることが目標とされている。またお出かけ支援事業などの高齢者を支える取り組みがある。



第2段階
20XX年

高齢者を町全体で支える仕組みができ、高齢者が住みやすい町となる。居住誘導区域に指定されたことにより居住施設が建築される利便性が向上する。



第3段階
2XXX年

居住誘導区域は福山市の中で広範囲にあり、利便性を比較すると坂道の多い日吉台には人口の流入が見られないようになる。

他の町とは異なる新しい魅力を持った計画が必要

5. 共通コンセプト

いつのまにかできる人の居場所。

建物の中に人を収めるのではなく、人が存在し、家具が一つあり、活動することにより空間が生まれる。ひとりひとりの空間を結びつけていくことにより町が生まれ、都市が形成される計画とする。伏見町は、椅子と人との間に生まれる空間である。人間のマイナスの感情に寄り添う「都市の逃げ道」として、駅前に一人のための自然豊かな食べる空間を計画した。日吉台では、机と人と間に生まれる空間とし、人の日常の感情に寄り添う「都市の滞留」として、住宅団地の新しい過ごし方を計画する。三之丸町では、人と活動の関係により生まれる空間を計画する。人のプラスの感情に寄り添った「都市を縫う」として、大型商業ビルではない、新しい駅前の在り方を提案する。



高層ビルの寿命が町の寿命。

現在駅前には、高層のビルが立ち並んでいる。

建物によって町はかたちづけられ、

駅前の高層ビルの中には

忘れられた「空き」が存在している。

都市を縫う。

広島県

福山市三え丸町。

「都市を縫う。」として、

人の動きによって町が形成される

自然と法則が生まれるような

新しい駅前の在り方を提案する。



人の動線が
つくる法律。



1. 背景

1.1 郊外商業施設と駅前商業施設



福山駅前の商業施設の始まりは、福山駅前の「福山繊維ビル」(現:ines FUKUYAMA)である。商業施設は、形や名称、所有者を変えながら継続しているが郊外の商業施設と比較すると訪れる人は少なく衰退している。繁栄期には駅前に6施設あったが現在は4つとなった。

1.2 福山駅前再生 現在の取り組み

現在は福山駅前再生ビジョンをたたき台とし、福山駅前デザイン会議、福山駅前再生協議会などが行われており福山駅前再生ビジョンの更に詳細な計画をまとめた「福山駅周辺デザイン計画」が完成した。三之丸町は「職住混在のスマートでクリエイティブなオフィス街」と位置づけられており、2023(令和5)年に完成予定の複合ビルはこの計画の核となる施設である。

1.3 問題点

建物の寿命とともに計画も
寿命になり町が衰退。

計画の持続性と駅前の
未来を考える必要がある

全国チェーン店による
個性の消失

個性を持った店舗。

駅前の再生を行うことにより
新しく郊外の町に問題が生じる。

計画が実行された後の
都市全体の将来を
考える必要がある。

2. 三之丸町 ビル調査



建築物は鉄骨造が半数を占め、鉄筋コンクリートは全体の13%を占めている。area2のように三之丸町の駅周辺から離れるにつれて住宅が増えている。駅の周辺のarea3はビルが密集しているが1階は使用されているが2、3階は空きテナントが目立つ。



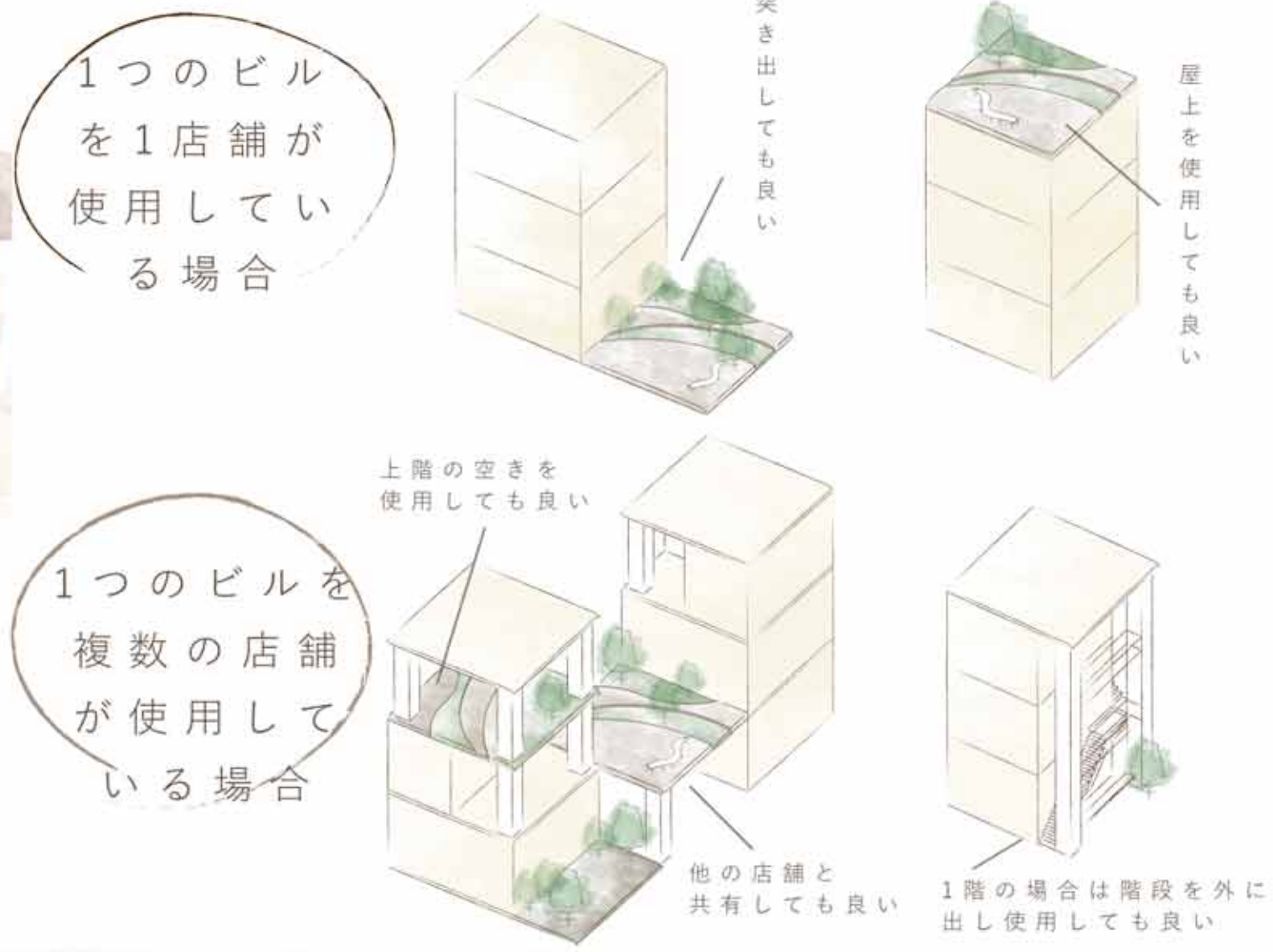
建築物構造種別
不動産情報サイト/現地調査により作成





新しい町のきっかけとして町の中に4つのルールを設ける。このルールの中では自由に建築することができる。また町の中は一般の車は侵入することが出来ない。「縦の道」は5階まで行くことができ、現在は4階程度までしか利用されていないが、時代の変化に応じて減らすことも増やすこともできる。

オープンスペースのかたち



テナントの床面積の10%以上を
オープンな場所として町に開放してください



新しい町のきっかけ。

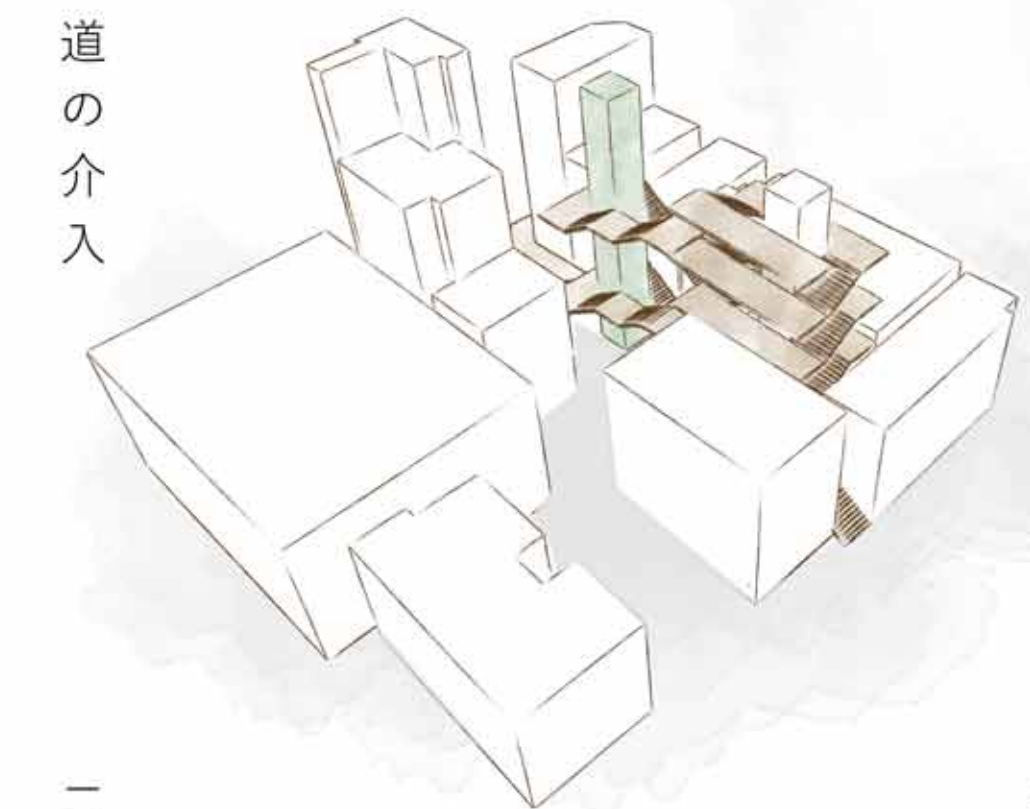


「住宅はプライベートな庭に加え、
町と交流できる場をひとつ設けてほしいです。」

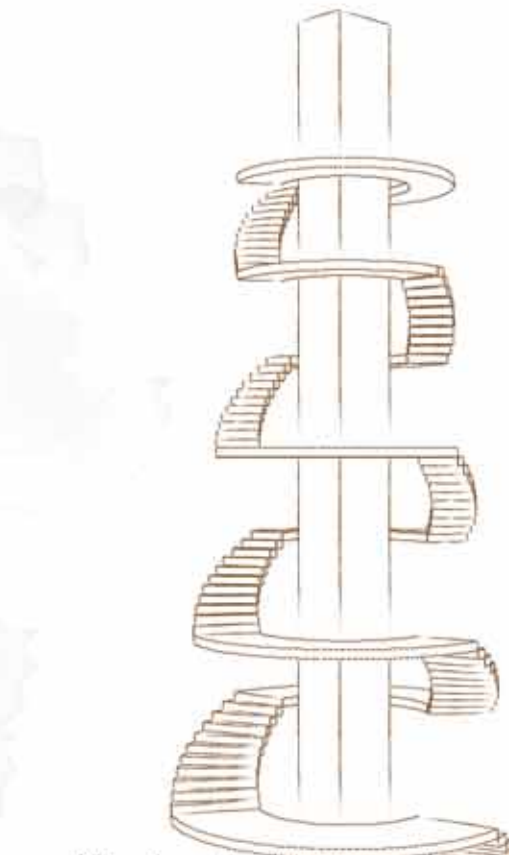
3. ダイアグラム

4. 縦の道

一、縦の道の介入
町に分散して様々な形の異なる階段・エレベーターを設置

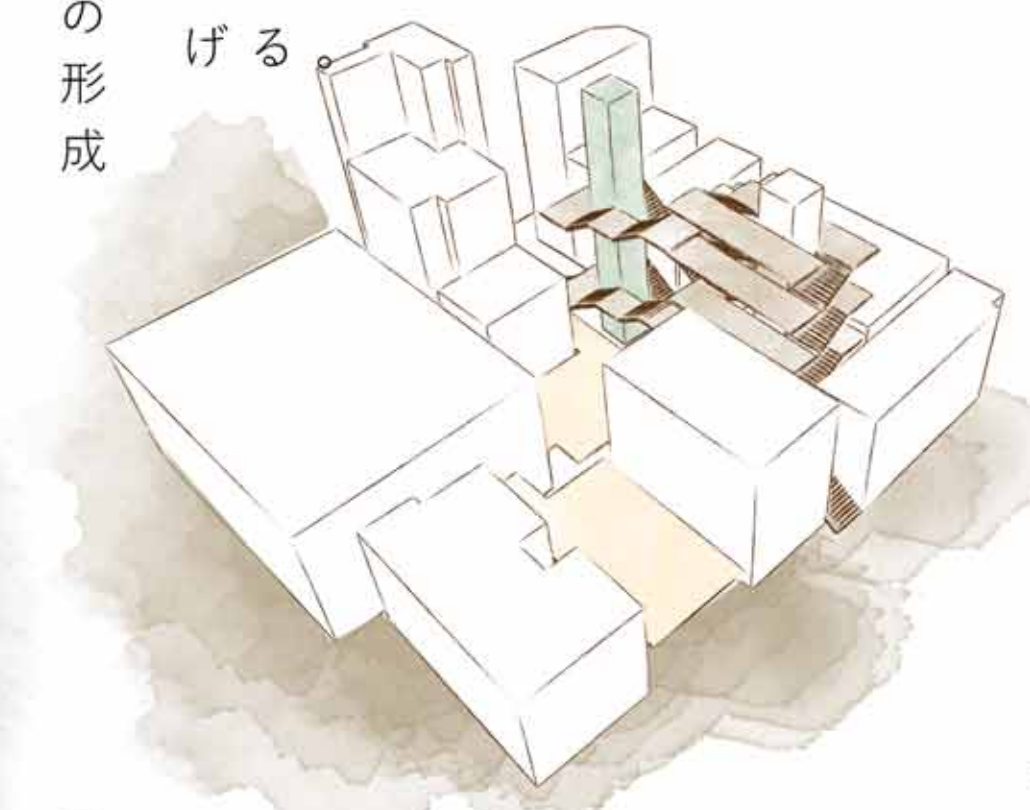


縫い型

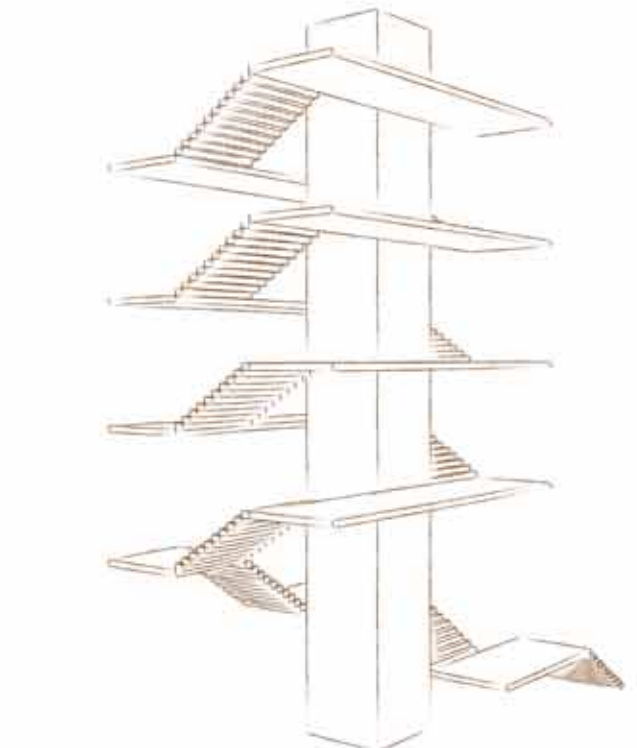


都市を縫っていくような人の動きを表現。

二、横の道の形成
縦の道をテナントのオープンスペースや住宅のオープンガーデンとつなげる

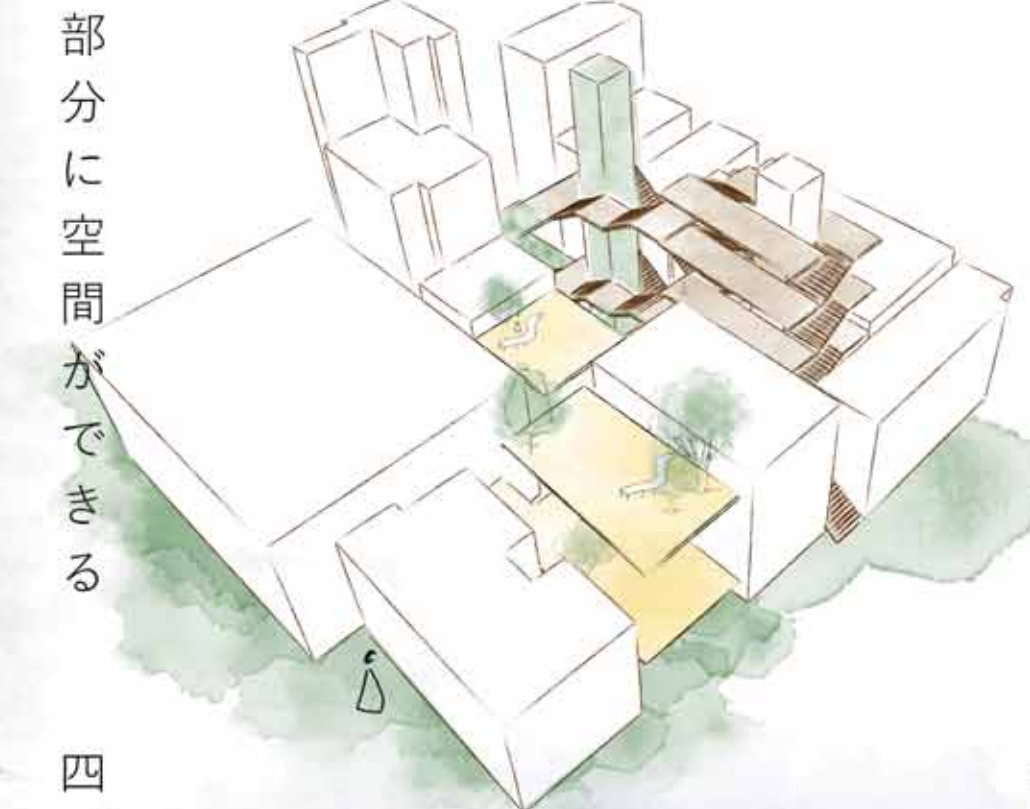


探検型

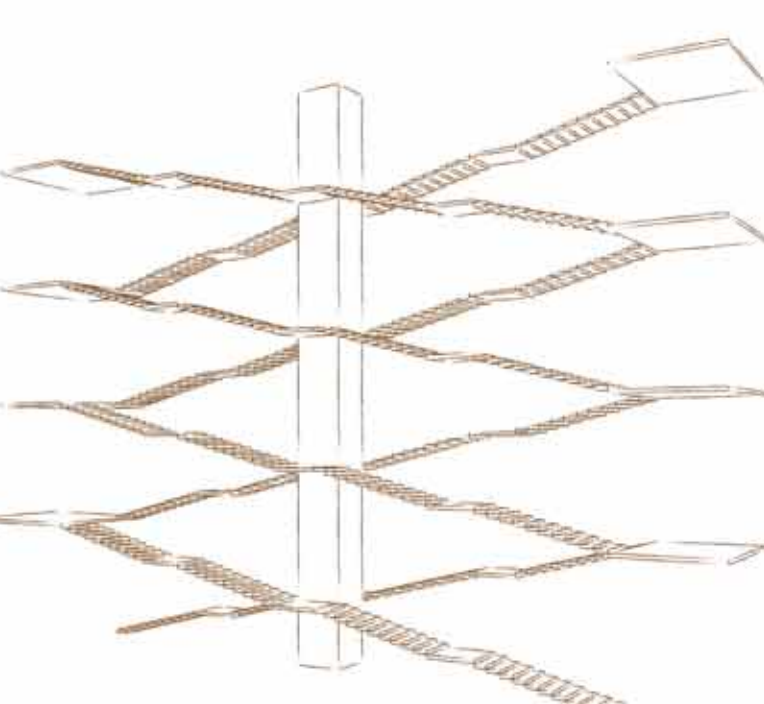


細い路地を巡り登ることで縦状の森の中を探検するようなイメージ。

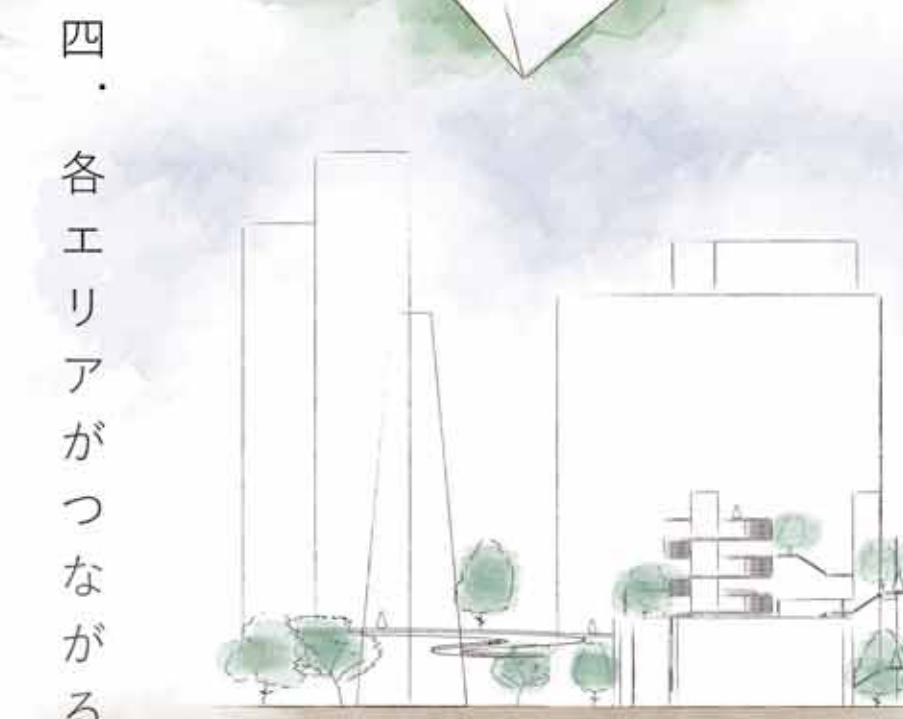
三、交わる部分に空間ができる
縦の道と横の道が交わる部分に新しく店舗や住居オープンスペースを計画する。



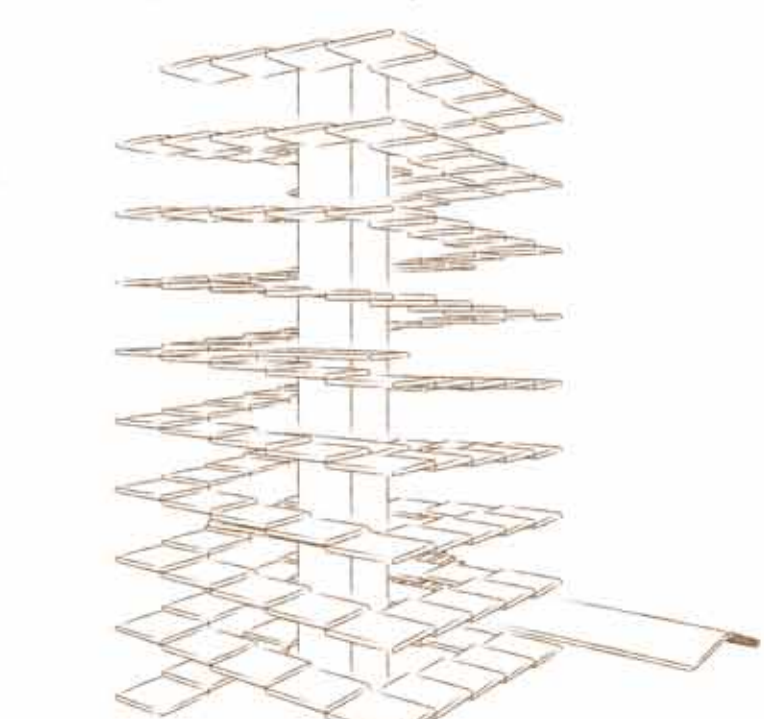
すれ違い型



広い階段から狭い階段になり、異なる方向から来た人がすれ違い続ける不思議な階段。



未来型



大型高層ビルを取り巻く階段。



「今日から、偶数の階は住宅、奇数の階はお店しか建築できません。」



ゾーニング「和風月名」

計画敷地の中には12のエリアに分類され日本の月の和風の呼び名「和風月名」をもとに名付けられている。オープンスペースの形も月名に併せた意匠で計画している。例えば神無月(10月)に実るイチジクを販売する店舗が「神無月」入ったり、新入生のための制服を販売する店舗は「卯月」(4月)に入ったりすることでより季節感を感じることが出来る町になる。またこの町のオープンスペースは季節ごとのイベントを開催する場合に使用することができ町全体でイベントを楽しむこともできる。

目土月 卯月に親類-同が集まる、睦み(親しくする)の月。
他のエリアからこの町に人が流れ込むイメージでデザインしている。曲線。

如月 衣更着(まさろぎ)とも言う。まだ寒さが残っていて衣を重ね着る月。布を重ねるを店の重なりで表現。道から一本中に入ると店が広がる。

弥生 木草弥生(やよい)の月。木がお生い茂るような様子を階段で表現している。店や家が花びら。

卯月 卯の花の月。卯の花がポツポツと咲く様子を表現している。





白
羊
月

早苗 (さなえ) を植える月。

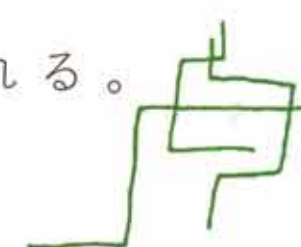
このエリアには既存の店舗が多く存在し、
苗を植える始まりの場所となる。



水
無
月

水の日で田に水を引く日の意と 言われる

細い路地を抜けると豊かに水が流れる。
お店の隙間をくぐって探検できる。



文
日

稲の穂が実る月。

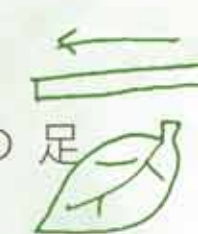
穂が実る様子を階段で表現。このエリア
から睦月のエリアまでスロープを登って
行くことができる。



葉
月

木々の葉落ち月。

木が茂る場所から徐々に秋への足
音が聞こえてくる。



オープンスペースの流れ

既存
1階
平面図



0 3000 6000 9000mm

複数テナントが存在しているビル。
例) 師走

階段下を利用



0 3000 6000 9000mm

各テナントの床面積の10%以上をオ
ープンスペースで設定する。

各店舗で相談して
共有の飲食スペースと
通路を計画すること。

階段を開放させることで
上層部にのぼり易くなる。



0 3000 6000 9000mm

自然とオープンスペースがつながっ
たり、集まる場ができたりする。

中の町の入り口になる。

異なる物を食べていても
一緒に食事が出来る場所。

2階
平面図

ビルをまたいで住宅の部屋を配置



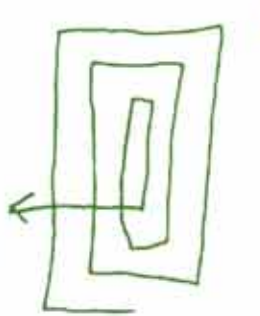
上階で各ビルを繋ぐ廊下をつくるこ
とでより豊かな場所が広がる。

将来ビルが完成した際に
他のエリアとつなぐこともできる。



長 夜長月。

日 長い年月を存在するもの。町の基盤となる代表的な場所。



神 神の月の意味。

無 建築物や階段を極力なくし神聖さを表現している。細い道を抜けると師走のエリアにたどり着く。



霜 霜の降る月。

霜の降る月。

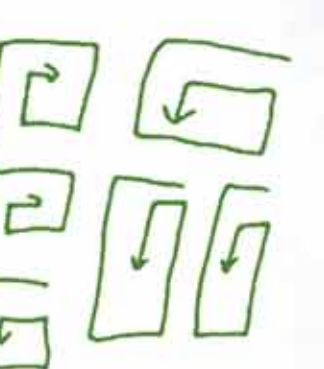
長月に向かう階段がある場所。既存の店舗も多く存在している。



師 師匠といえども超える月。

走

一年で一番忙しい月。様々な物や人が集結する場所。このエリアは新規に階段は介入せず既存を生かしている。



「反転」「拡大」「縮小」を繰り返す都市。

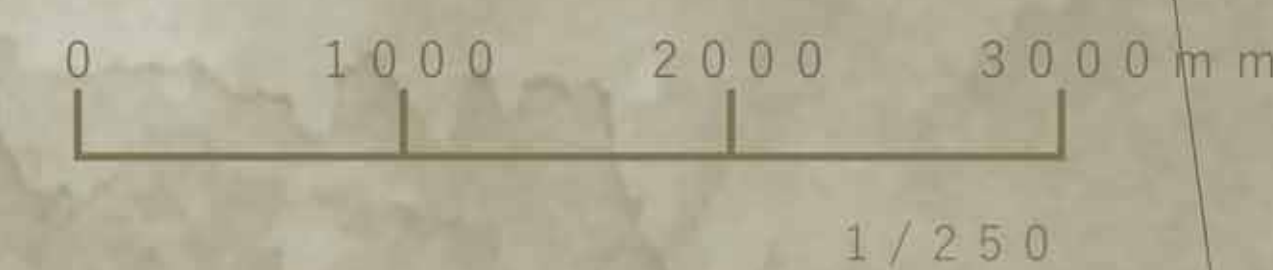
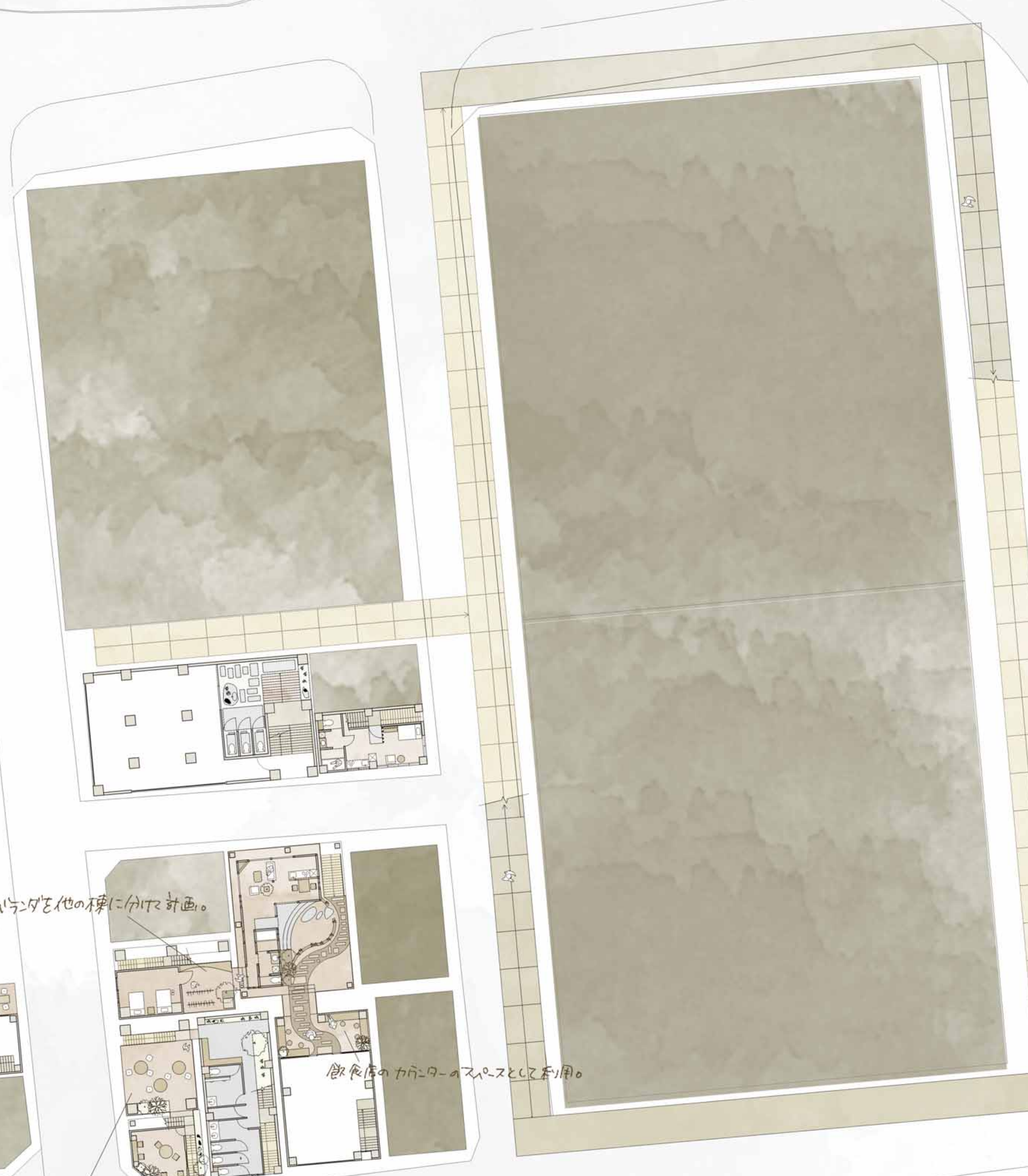
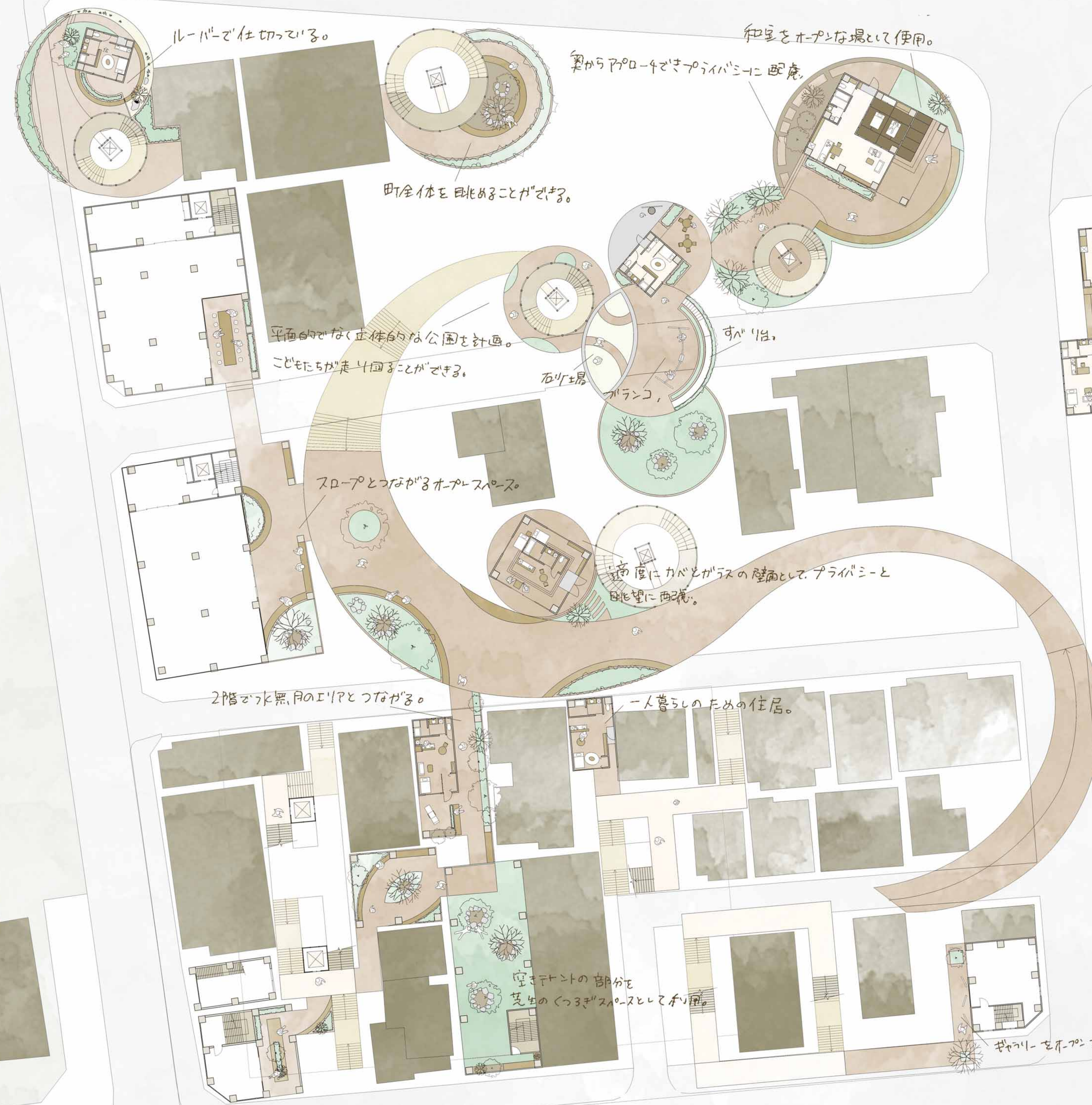
現在の都市の再開発の手法は高層の建築物を建築するのみであり、建築物の老朽化に伴い町も衰退してしまう。地方都市に求められるのは町の個性を表現でき、また人の動きによって町がつくられていくことである。人が少ない時代には町も縮小し、人が増加すれば町も拡大するように人に合わせ町も変化することが大切であると考え。

人が減れば町も縮小する。
人が増えれば町も拡大する。

2×××年



「拡大」





使用しない屋上スペースは緑化する。

立体的な公園は5階までつづき、
利用しないスペースでも子どもたちが走り回ることができる。



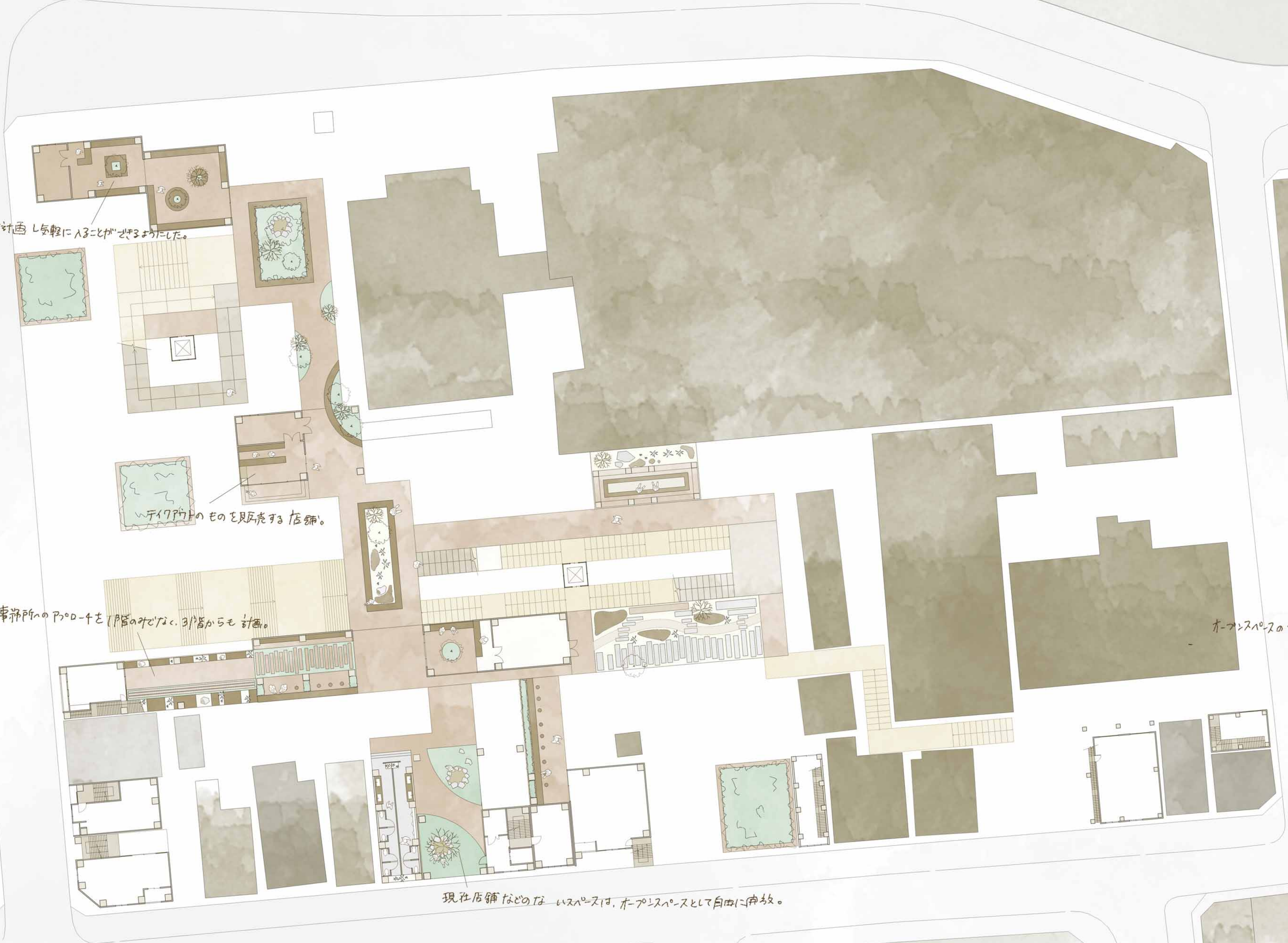
立ち居の飲食スペースを計画し気軽に人が集まるようにした。



緑豊かな空間をめぐる「水無月」のエリアに向かう。
1階は1階部分、夜は2階部分を利用する店舗とし、
特別な空間を設ける。

病院の待ち合いスペースとしてオープンに計画。

140m x 100mの「道の駅」として計画。



「デザイン」のものを販売する店舗。

事務所へのアプローチを1階部分とし、3階から設計。

現在店舗などのスペースは、オープンスペースとして自由に開放。

オープンスペースのデザインは、季節感や温度に合わせたものを計画。

0 1000 2000 3000 mm

1/250



上階に何の方向も存在なくも、展望台として利用できる。

ビル同士のオーガニクスをつなげ、ビル間と気候に行き来することか、
できるように計画。

新しい場所を作る人は、現在人が利用している場所をえらぶことできる。

学生時は常に風が入る場合が多いので、
オーガニクスに注意を払う。

この階段は2023年11月までに完成している。

